第６章　図書の購入

年間数回の購入希望調査による図書の購入だけではなく、図書委員会の活動の一環として、生徒自身が書店で図書を購入するなど、生徒の希望を速やかに反映するようにして図書を購入しています。

１　生徒による図書の購入

日光明峰高校では、図書委員が宇都宮市内の書店に出向き、予算額10万円の範囲内で、その場で図書を購入しています。

小山西高校では、図書委員から８名程度の希望者を募り、夏休みを利用して東京駅近辺の書店に行きます。定員を上回る希望者が出るという人気のある取組です。当日は、二つの書店を巡り、合計予算額20万円の範囲内で図書を選んで、購入候補のリストを作成します。後日、既に学校で購入済みの図書を除いて購入します。生徒の交通費は、生徒会から「図書委員の研修費」として支給されます。なお、買い出しの対象となった二店について、「創業の歴史」、「店内の様子」、「レイアウト」、「品揃え」、「おしゃれ度」などの観点から、生徒が比較して論じた記事を図書館だよりに掲載して、全校生に報告しています。

丸善 vs 八重洲ブックセンター

3-1　3-2　・　1-2　1-3

平成18年7月31日、恒例の図書委員会研修で八重洲ブックセンターと丸善丸の内オワゾ本店に行き、本を選んできました。この二つの日本を代表する大型書店は東京駅を挟んで東西にあります。

書店名	丸　善	八重洲ブックセンター
創業の歴史など	創業者 早矢仕有的（はやしゆうてき）は 1837 年岐阜生れ。向学の志を抱き 24 歳で江戸へ。江戸の名医と言われる。新日本の建設には商業、貿易の振興が大切であると考え、師の福澤諭吉の勧めもあり、医者をやめ 1869 年（明治２年）西洋の書籍や雑貨などを輸入する日本初の株式会社組織による貿易事業を始めた。熊業の理想と精神を謳った設立趣意書「丸屋商社之記」の先駆性と使命感は高く評価される。「丸善文化」は多くの文化人に愛され、京都店は梶井基次郎の小説『檸檬』の舞台として有名。京都２代目店舗（2005 年閉店）閉店決定後多くのファンが小説のようにレモンを置き残し、また『檸檬』の販売も急増した。 ちなみに、ハヤシライスは早矢仕有的が考案したという説があり、『丸善百年史』は否定しているが、丸の内オワゾ本店のレストランのメニューにはハヤシライスがある。	鹿島建設グループ・鹿島建設社長だった鹿島守之助が、1978 年，東京駅前日本社ビル跡地に開設した。「どんな本でもすぐ手に入るような書店が欲しい」という鹿島守之助の指示により、あらゆる書籍を取り揃えるために通常の書店とは異なり買取仕入が主体である。地上８階地下１階、在庫蔵約１５０万冊を誇る単一店舗としては日本最大の書店である。希代の読書家鹿島守之助の文化的遺産といえる。 なお、八重洲の地名は、1600 年、豊後（大分県）に漂着したオランダ商船リーフデ号の船員ヤン＝ヨーステンにちなんだものである。ヤン＝ヨーステンは徳川家康に仕え、江戸の屋敷跡は八代州河岸と呼ばれた。ヤン＝ヨーステンの日本名は耶揚子（ヤヨウス）→ 八代洲（ヤヨス）→ 八重洲（ヤエス）。
第１ラウンド 店内の様子	LOSE　暗くて、店員が少なかった。	***WIN***　明るくて、適度に階段があって、健康的だった。
第２ラウンド レイアウト	***WIN***　検索端末パソコンが各所にあって、検索した本があるコーナーだけでなく、どの本棚にあるかまで出てきてすごく便利で、本が探しやすかった。ジャンルごとのレイアウト、特設コーナーが見やすく内容もよかった。	LOSE　本が多すぎ、また本棚が高すぎて見づらかった。蔵書数の多いことは探している本がある可能性が高いが、逆に言えばその多さで目的のものが見つからないかもしれない点。
第３ラウンド 品揃え	LOSE　文庫は揃っていたが、ハードカバーや新書があまり充実していなかった。社会人向けの本が多く、偏みたいに偏った趣味の本が、少なかったとは言えないが、わざわざ東京まで来た価値があったといえるほどのものでなかった。	***WIN***　とてつもない蔵書数で、様々なジャンルが十分そろっており見つからない本が無いくらいだった。新書が充実していて、また８階まであり、洋書から絵本などまで幅広く揃っていた。
第４ラウンド おしゃれ度・その他	***WIN***　最上階に喫茶店があったり、時期で変わる特集みたいなものをやってて、一流ビジネスマンが訪れる場所みたいな印象だった。東京駅のすぐ前にあり、新しくてきれい。	LOSE　フロアが８階だったのだが、４階から８階までエスカレーターが無く、非常に行き来するのが面倒だし疲れた。
結論	これは、あくまで私たちの意見なので、是非自分で行ってその目で確かめてください。どちらも、一日中ここで過ごしたいと思う、楽しいところであることまちがいなし。	

ONISHI LIBRARY NEW 100 号 その１　小山西高校図書委員会

生徒が二つの書店の比較を述べた記事（小西高）

2　20冊単位での図書の購入

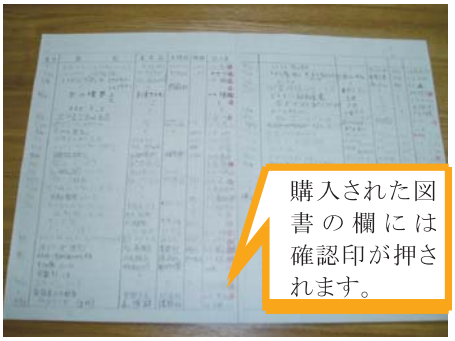
真岡女子高校では、定期的な購入とは別に、20冊単位でこまめに図書を購入しています。そのため、新刊もすぐに学校図書館に入ります。学校図書館に行けば常に新刊があるという安心感や期待感があり、生徒は頻繁に足を運んでいます。

人気の新着図書コーナー（真女高）

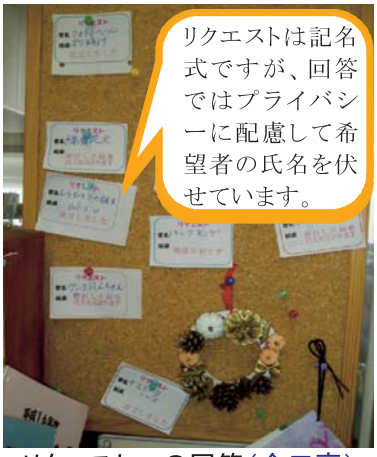
にぎわう休み時間（真女高）

3　図書の購入希望

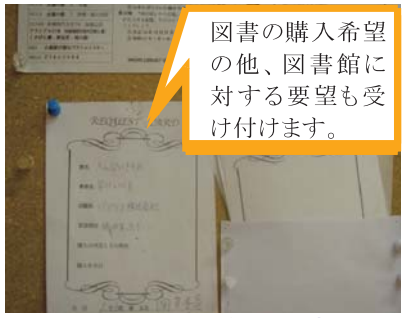
学校図書館内に、図書の購入希望を記入するノートやリクエストカードを常備して、随時受け付けています。



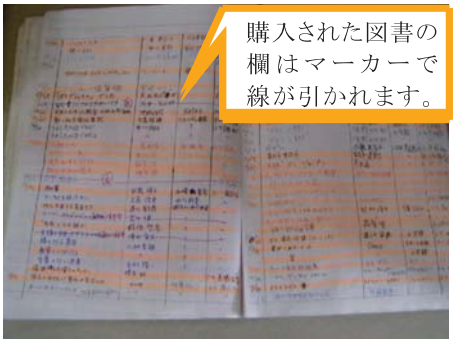
購入希望ノート（宇東高・附中）



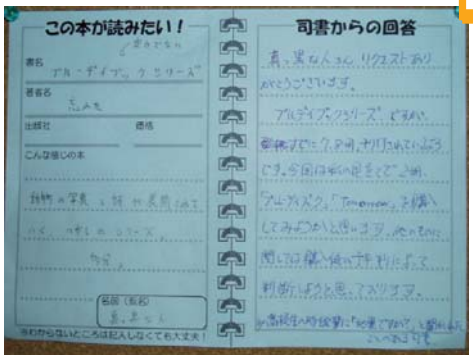
リクエストへの回答（今工高）



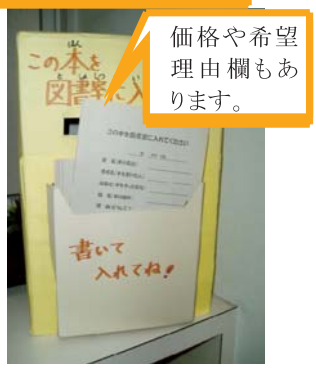
リクエストカード（小西高）



購入希望ノート（真女高）



「この本が読みたい！」（烏女高）



リクエストカード（聾校）